

I. 平成 29 年度 SD・FD 活動の概要

平成 29 年度、「大学設置基準の一部を改正する省令」の施行に伴うスタッフ・ディベロップメント (SD) の義務化を機に、FD 部会の名称を SD 部会へと変更した。新しい名称については、SD をファカルティ・デベロップメント (FD) を含む広い概念として捉える立場を取っている。今後、SD 部会は、FD 部会が従来取り組んできた教員の FD 活動と、教職員の大学運営・経営能力の開発・向上を組織的に支援する狭義の SD 活動とを一体的に推進することとなった。

SD 部会は活動初年度である平成 29 年度の年間活動テーマを「全学での SD 始動！—私たちが知っておくべきこと—」と定め、SD の概念及び活動方法等の概要を全教職員が認知し、主体的に取り組むための基盤づくりに重点を置いて活動を展開した。また、FD 活動については前年度までの活動を継続するとともに、新たに学生に対する学外実習評価アンケートの全学実施、ピアレビューの通年実施と参加の義務化、教育研修体系の構築、学生 FD 活動支援の強化に取り組んだ。活動の詳細は、以下のとおりである。

II. SD 活動

1. SD 研修会・SD ワークショップの開催

平成 29 年 8 月 18 日 (金)、『全学での SD 始動！！—私たちが知っておくべきこと—』をテーマに SD 部会主催の SD 研修会・SD ワークショップを開催した。目的は、教職員の SD に対する理解を深め、各自の課題意識を高めることにより、SD 活動への主体的な参加の基盤をつくることである。対象者 98 名のうち 83 名が参加した。研修会では、淑徳大学千葉キャンパス大学改革室 荒木俊博 氏を講師に迎え、「大学における SD とは」をテーマに、SD 義務化の流れから SD の基本的な考え方、身近で具体的な実践まで幅広い内容の講演が行われた。続くワークショップでは、日々の業務の中で感じている課題・解決策について、班別に分かれて情報共有、意見交換を行った。参加者アンケートの結果、講演会に対しては 84.3%、ワークショップに対しては 88.9%が「参考になった」と回答し、高い満足度が得られた。

2. SD 活動の組織的展開と研修の体系化に向けた協議

今後の SD 活動について、教職員の共通事項と教員並びに職員に特有の事項を整理し、それぞれの SD 活動推進体制を整える必要があることを SD 部会内で確認した。また、SD 研修の体系化に向けて協議を開始した。

III. FD 活動

1. 保健科学部

1) 学生による授業評価

(1) 学生による授業評価アンケート (講義・演習科目) の実施と結果の公開、及び授業改善計画の集約
例年どおり、学生による授業アンケートを各学期終了時に実施した。平成 29 年度の学部全体の回答率は、前期が 86.0%で前年度よりも 5.2 ポイントの低下、後期が 87.1%で前年度よりも 1.8 ポイントの上昇となった。結果については、授業科目毎に「授業アンケート集計・分析結果シート」を作成して授業科目担当教員へ還元するとともに、集計結果を pdf 化し、ホームページ上で広く閲覧できるようにした。また、アンケート結果に基づく授業改善計画の提出を、授業科目毎に担当する教員に求めた。

(2) 授業中間アンケートの推奨

例年どおり、授業期間中において学習状況の確認と授業の改善すべき点の明確化を図り、授業改善の機会を保障することを目的とする授業中間アンケートを「推奨」の形で実施した。

(3) 学外実習評価アンケート

学外実習科目を開講する全ての学科でアンケートを実施し、各学科内及び一部実習施設との間で結果を共有した。

2) ピアレビュー

開始から5年目を迎え、教員間による評価の視点の導入、参加者固定化の解消等の課題への取り組みを進めた。教員間による評価については、平成28年度後期から導入した授業評価票を継続使用し、実用性、授業改善の効果等の検証に向けて資料を蓄積した。参加者の固定化に対しては、従来、前・後期に各3週間の期間を定めて実施してきた方法を見直し、平成29年度から実施期間を通年とするとともに、参加を必須とすることについて学内のコンセンサスを得た。

3) 教育研修体系の構築

本学教員の教育能力の開発、向上を図るための教育研修の体系化に着手した。教育経験年数に応じた段階別到達目標に基づく、集合研修とOJTの連動による研修計画を策定し、平成30年度から運用を開始する予定である。

4) 外部セミナー等への参加による情報授受

FDネットワーク“つばさ”に参加し、他大学の教職員とFDに関する諸問題及び対応策と問題意識を共有した。

5) 学生FD活動支援

学生FDの組織化に向け、学生団体代表者との対話を始めた。また、学生代表者の「学生FDサミット2017」（平成30年3月、法政大学）への参加に対する補助を行った。

2. 保健科学研究科

1) 学生による授業評価アンケートの実施、結果の担当教員への還元及び公開

例年どおり、学生による授業アンケートを前期終了時に実施した。回答率は、調査対象授業科目31科目中26科目で100%、平均94.5%であった。結果は授業科目毎に集計し、自由記載と合わせて授業科目担当教員へ還元するとともに、集計結果をpdf化し、ホームページ上で公開した。

2) 学生の研究環境の整備

特別研究を担当する各教員が各々の研究活動を通して研究フィールドの開拓、整備に努めた結果、全学生が滞りなく研究に着手できた。

IV. その他の活動

1. 定期的なSD部会開催とSD・FD活動報告書の作成と公開

月1回定例にて会議を開催し、SD・FD活動の企画・評価、情報収集などを実施した。SD部会の活動の実績は報告書として2017年度年報に収録した。

V. 今後の課題

平成 30 年度は、本学における SD、FD それぞれの研修体系を明確化し、計画的に研修を提供する仕組みを確立することを目指す。SD については、事務職員向け及び全教職員向けの研修をそれぞれ企画・実施する。FD については研修体系に基づく段階別研修への着手及びピアレビューの教育改善への活用を重点課題とし、教育に関連する新しい情報にも広く目を向け、適切に取り込みながら、前年度の取り組みを継続、発展させる。さらに、大学院の教育の質向上に資する取り組みを強化する。また、SD 部会委員の研修の機会を確保し、本学における SD・FD 活動の質向上の基盤を整える。